



創立名誉指揮者 村川 千秋

～山形の音楽文化と子どもたちに情熱を捧げた93年の人生～

1933(昭和8)年1月1日、山形県村山市生まれ。

戦後、山形市で初めてのクラシック演奏会となる山形第4小学校体育館での近衛秀麿指揮の東京交響楽団を現在の高校1年生時に鑑賞。初めて触れる本格的な生の音楽に感動、音楽の道をめざす。51年、念願の東京藝術大学に合格し、作曲を池内友次郎氏に師事した。63年渡米、インディアナ大学大学院で指揮を専攻、理論科助手として勤める。マスター・オブ・ミュージックを授かる。さらにニューヨークにてレオポルド・ストコフスキーのもとで研鑽を積む。また、シベリウスの娘婿の知己を得、彼を通じてシベリウスの真髄に触れる。

66年帰国。同年9月東京交響楽団を指揮してデビュー。以後、東京交響楽団・札幌交響楽団・日本フィルハーモニー交響楽団・京都市交響楽団などを指揮する。

68年東京音楽大学指揮科講師。71年、地方の子どもに生の音楽の感動を届けたいと、趣意書「山形交響楽団を設立しましょう」をまとめ、呼びかけを始める。72年、東北初のプロ・オーケストラとして山形交響楽団を設立、音楽監督兼常任指揮者を務める。2001年より同楽団創立名誉指揮者。

「北欧の作曲家でもあるシベリウスの音は、我々の心情、鼓動に合う」とし、95年の第97回定期から2001年の第132回定期まで、厳寒期である毎年1月に、シベリウスの交響曲全7曲の演奏に取り組んだ。

また、74年には子どもを対象としたヴァイオリン教室「キラキラ会」を主宰。幼児向けの音楽会を開催するなど、最晩年まで音楽教育に力を注いだ。

【受賞歴】

68年、第11回山新3P賞「進歩賞」受賞。92年、山形県教育功労者表彰。94年、渡邊暁雄音楽基金特別賞受賞。95年、齋藤茂吉文化賞(山形県の文化賞)受賞。2004年、文化庁「平成16年度地域文化功労者表彰」受賞。13年、村山市名誉市民。

【愛され続ける多くの著作・・・生涯を通じて、子ども達に寄り添い続けた】

「たのしいわおん」、「バイオリンのおともだち」など、子どもたちが楽しく学べる本を出版。最後まで子どもたちに音楽を楽しんでほしいという情熱を捧げ、普及活動を行った。

【90歳を超えてもなお、シベリウスへの情熱を注ぎ続けた軌跡】

2023年、24年にやまぎん県民ホールで開催したコンサートでは、90歳を迎えたとは思えないほど力強く、情熱的で魂のこもった、雄大なシベリウスシリーズで観客を魅了。

地元である村山市でも毎年指揮台に立ち、山響を指揮。娘の千尋氏との親子共演など、村山でしか体験できない、古里ならではの温かいステージを創り上げた。

最後のステージとなったのも、この村山市(2025年5月18日)。亡くなる1ヶ月前まで情熱的にステージに立ち続けた。

また、91歳で、自身初のCD(シベリウス交響曲第3番 ほか)を発売。音楽評論家による推薦盤として選出されるなど、全国的な話題となった。